

# 旧安房南高校舎の保存活用へ

## 元教員や卒業生らで「愛する会」発足

日本古来の木造建築と西洋建築を融合させたつくりが特徴で、県文化財にも指定されている館山市の旧安房南高校の木造校舎（第一校舎）を保存活用する市民グループ「安房南高等学校木造校舎を愛する会」が、昨春秋に発足した。賛同する会員はすでに100人を超え、年間を通して建物の維持活動のほか、忘れられつつある歴史をひもといて調査・記録し、その価値を多くの人たちと分かち合っていきたい」としている。

女子教育としては県内のような外観で、ひし形学会とシンボリズムが開でつ番目の歴史を誇ったを重ねたレリーフや窓飾り、戦後には安房女子高校、安房第一高校、安房南高校と名称を変えながら2008年、安房高校に統合し閉校となった。

旧第一校舎は、関東大震災から7年後の1930年に耐震構造の新しい建築様式で建てられた。これを憂慮した市民有志により、2011年には木造校舎を見つめ直す見

はなく、永続的な有効活用を考える市民の会を設立できないだろうか。そう考えた同校元教員の愛沢伸雄氏と水上順義氏、そして文化財建造物修復の専門家である柴山慶二氏が発起人となり、同校卒業生や旧職員を中心に呼び掛け、昨年夏から有志による話し合いが持たれた。

その後、地域内外の男女約30人が参加し、夏の早朝から草刈りや掃除が5回にわたって行われた。10月の見学会では、資料室の解説や伝統的な「ぬか雑巾」の床磨き体験などを担当し、来訪

の催事に終わらせるので

者のおもてなしにも協力した。

こうした活動を

経て会は

発足。旧

安房南高

校の同窓

も呼び掛

け、歴代

役員らが

顧問とな

り、会長は

第7回卒業

の佐野ふさ

子氏が就任

した。事務

局長は愛沢

氏、代表を

務めるN

だけだなく、

この校舎を

愛する皆さんが

集まって、熱心に汗を流して



＝館山メンバー話し合う会発足に向けて

どこかをなくしたように寂しさがあつたので、愛する会ができてもらう

だけだなく、この校舎を愛する皆さんが集まって、熱心に汗を流して

ださることに感謝が絶えない。この木造校舎がよ

みがえっていくことが楽しみ」と喜ぶ。

「この校舎にいと創作意欲がかき立てられる

ので、芸術家を育てるア

トリエとしても利用価値

が高い。全国から芸術家

の卵が集まってもらい、

空き店舗のシャッターや

市街地にも創作活動を広

げてもらえば、まちも元

気になるだろう」と同校

の美術教師であった水上

順義氏。

また、木造校舎はまちの景観として素晴らしいばかりでなく、校舎内に埋もれている資料にも価値がある。戦跡などの文化遺産を保存・活用し館

山まるごと博物館」のまちづくり構想を進めたい

た愛沢事務局長は、「地域史を知る上で安房高女の歴史は重要。例えば戦争末期、校舎は野戦病院に位置付けられ、沖縄のひめゆり学徒隊のように、女学生が館山病院で看護実習の指導を受けていたという。卒業生の証言とともに調査研究を深め、地域教育の伝統や文化を学ぶことを通じて、木造校舎をまちづくり

に生かしていきたい」と話

す。校舎を管理する県教育委員会文化財課は、「こうした動きは」あり

がたい事です。今後、どう

いう形で永続的に保存活用

するのか、一緒に話し合

っていききたい」として

いる。

愛する会の会員は現在

110人を超える。年会

費1000円で賛同者を

募り、年間を通して引き

続き建物の維持活動のほ

か、文化財としての調

査・記録、その価値を広く

市民に知らせるための

企画展などの催事や会報

発行などを行っていく予

定だ。

会では、会員を募って

いる。年会費は1000

円（ゆうちょ銀行振替口座へ00270-4187431安房南高等学校木造校舎を愛する会）まで。問い合わせは、事務局（0470-2218271）へ。